

事業概要書

事業名	防災きずな学園合同研修～東日本大震災の教訓を次なる防災活動に活かす～				
開始日	2024年3月1日	終了日	2024年3月31日	日数	31日
団体名	防災きずな学園				
(カウンターパート)	夢団～未来へつなげる ONE TEAM～、防災普及学生団体 Genkai、3.11 つなぐっぺし、つなぐ、つながるプロジェクト、横浜桐蔭学園卒業生有志、三陸ひとつなぎ自然学校				
担当者名	伊藤 聡	スタッフ人数	4人		

事業費総額 (税込)	610,590 円
CF 事業枠	500,000 円
その他資金	110,590 円

事業目的	「仙台防災未来フォーラム 2024」への出展を通じ、地域や学校を超え能動的に活動する若者の姿を広く世の中に知ってもらうことで、災意識の向上や震災の風化防止に貢献すると共に、震災を経験していなくても防災・伝承に寄与できることを示し、若い世代の巻き込みにつなげる。
事業全体の概要	<p>○防災きずな学園とは</p> <p>防災きずな学園は、「東日本大震災の教訓を次の防災に活かす」をテーマに、東日本大震災の被災地で伝承・防災活動を行う高校生や、神奈川県をはじめとした未災地で楽しく学べる防災の普及活動を行う学生団体、防災の研究を行う大学生などで構成され、2023年9月に横浜で開催された「ぼうさいこくたい 2023」に共同でブース出展をしたことをきっかけとして結成された。現在は定期的に活動の共有を行うとともに、災害の教訓を活かすことを目的とした防災ゲームのコンテンツを共同で開発している。</p> <p>○構成団体や協力体制について</p> <p>《構成団体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢団～未来へつなげる ONE TEAM～ (岩手県釜石市) ・防災普及学生団体 Genkai (神奈川県鎌倉市) ・3.11 つなぐっぺし (神奈川県逗子市) ・つなぐ、つながるプロジェクト (慶應義塾大学学生有志) ・横浜桐蔭学園卒業生有志 <p>【事務局】</p> <p>飛川優 (慶應義塾大学 2年) : 全体の統括、防災小説責任者 橋元玄 (Genkai 代表、高校 3年) : 神奈川の高校生の取りまとめ 中居林優心 (夢団、高校 3年) : 釜石の高校生の取りまとめ、防災ゲーム責任者</p>

伊藤聡（三陸ひとつなぎ自然学校）：全体のサポート、宮城研修・仙台フォーラム担当

※主にこの4名が事務局メンバーとして定期的にミーティングを行い、高校生が動きやすい環境づくりをサポートしている

○取り組むべき課題

●震災を知らない世代を巻き込み続ける仕組みづくり

震災から13年近くが経過し、夢団をはじめ防災・伝承に取り組む若者が震災の記憶を持たない世代になってきている。震災を知らずに育った世代からは「経験していないことを話す」ということについて戸惑いも感じられる。また、震災を経験しこれまで伝承活動の中心となってきた高齢者の経験をどう後世に繋いでいくかも課題となっている。震災を知らない世代が防災や伝承の活動に参加しやすい環境づくり、参加したいと思える魅力的な取り組みを行うことが求められている。

●若者による震災伝承活動の成果や効果の検証・評価の可視化

防災や伝承の活動はその成果や効果が可視化しにくく、短期間で成果が出るものでもない。助成金の多くは1年間で成果を求めるものが多く、こういった活動への支援が未だ少ないのが現状。

●活動に必要な資金調達の持続性

前述のとおり、助成金がつきにくい活動であるが故に、活動資金はクラウドファンディングなどの寄付に頼らざるを得ない。一方で新しい世代を巻き込んでいくためには受け皿があることが大前提となる。活動の幅を広げ、より安定的に活動を行うためにも資金調達の方策を検討する必要がある。

○パートナー事業で行う取り組み

本事業においては、「震災を知らない世代を巻き込み続ける仕組みづくり」の一環として、地域外（神奈川県鎌倉市）で防災活動に取り組む若者たちと共に活動するプロジェクトを計画。震災を経験していなくとも「防災」によせる共通の想いを持っていれば活動に参画できるということを地域内外の若者に知ってもらう機会とする。

具体的には、2024年3月9日に仙台市で行われる「仙台防災未来フォーラム2024」にあわせ、宮城県内や釜石市内において防災研修や交流等を実施する。

参加者は各団体内で募集して集まった有志で実施。

スケジュールは以下の通り。

3月8日

宮城県内の語り部ガイドや震災伝承施設を訪問した合同研修の実施

- ・気仙沼市東日本大震災遺構伝承館 見学（ガイド付き）
- ・石巻市震災遺構 門脇小学校 / MEET 門脇 見学（ガイド付き）

3月9日**仙台防災未来フォーラム 2024 ヘブース出展 (9:00～16:00)**

[会場] 仙台国際センター展示棟ほか

[時間] 9:00～16:00

開発中のオリジナル防災ゲーム「防災・坊主めぐり」のプロトタイプを体験するブースを出展

【参考】仙台防災未来フォーラム 2024

<https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2024/>

3月10日**釜石シーウェイブス RFC ホーム戦会場での伝承活動**

地元ラグビーチームのホーム戦に合わせ、会場内で「夢団オリジナルデザイン安否札」の配布や語り部を通じた伝承活動を実施

[会場] 釜石鶴住居復興スタジアム

[活動時間] 11:30 集合～15:30 終了 (予定)

防災小説 発表会

自らが被災する物語を綴ることで災害を自分ごと化することを目的とした防災教材「防災小説」の作成に初めてチャレンジする。事前に各団体内で作成したものを釜石市内の伝承施設でお披露目しながら交流を実施する

[会場] 津波伝承施設いのちをつなぐ未来館

[時間] 16:00～17:00 (予定)

3月11日**釜石市内で行われる震災追悼企画へ参加予定**

詳細は調整中

3月下旬**振り返りの実施と活動の報告会**

本事業へ参加したメンバーによる振り返りを行うことで、自身が得た知識や経験を学びとして落とし込み、それを活かした活動の推進につなげる。

また、研修には全てのメンバーが参加できる訳ではないことから、活動の報告会を実施し、参加者が得た知識や経験を共有する場を提供する。さらに、ご家族や先生、協力してくださる方々にも報告を行うことで、活動のサポートを得やすくし、活動しやすい環境づくりにもつなげる。

○今後の展望

- ・ 地域の垣根を越えた連携は、お互いの防災や伝承活動の知見を活かし合う点において有効的であることから、次年度以降も継続・拡大をしていく。現役世代が活躍し

	<p>ている姿を見せ続けることによる「憧れの連鎖」は、世代交代が必ず生じる高校生にとっては必須の条件であり、現に高校生が防災に真剣に取り組んでいる姿に「かっこよさ」を感じて入会する生徒も年々増えていることから、震災を知らない世代を巻き込むためにも、ベースとなる地元で根付いた活動を継続しながらも地域外へ活大する動きも行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の持続性という点では、安定した資金調達の仕組みづくりが重要である。2023年当初から開発を続けるオリジナル防災ゲーム「防災・坊主めぐり」は、何度か対外的に体験機会を設けているがゲーム性の高さと学びの要素のバランスが非常に高いこともあり、商品化を視野に入れている。ボランティア要素の高い高校生の活動であるが、グッズ販売とセットで行うことで必要な活動資金を捻出する原資とする。
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	
コンポーネント①	裨益者 (誰が、何人)
<p>1) 宮城県内の語り部ガイドや震災伝承施設を訪問した合同研修の実施</p> <p>2) 仙台防災未来フォーラム 2024 ヘブース出展</p> <p>3) 釜石シーウェイブス RFC ホーム戦会場での伝承活動</p> <p>4) 防災小説発表会</p> <p>5) 活動の振り返り及び報告会の実施</p>	<p>直接的な裨益者数 研修に参加のメンバー：24名</p> <p>間接的な裨益者数 参加メンバーから経験談を聞いた人：200名</p> <p>直接的な裨益者数 ブースでオリジナル防災ゲームを体験した来場者：150名</p> <p>間接的な裨益者数 研修に参加のメンバー：24名 参加メンバーから経験談を来た人：200名</p> <p>直接的な裨益者数 語り部を聞いた来場者：50名 オリジナルグッズ（安否札）を受け取った人数：200名 防災小説の発表を聞いた来場者：50名</p> <p>間接的な裨益者数 研修に参加のメンバー：24名</p>

参加メンバーから話を
聞いた人：200名